

経営一転語 29 設備投資の不利な側面

設備投資はもちろん有効な側面もありますが、今回は、設備投資の不利な側面について述べてみたいと思います。リスクを知っておくことは「知は力なり」で経営力の強化にもなります。

まず、設備投資の第1の不利は、設備資金を借りた時の支払利息、減価償却費、維持費などの増加と、設備投資に伴い人を増加した場合には、人件費などの増加による固定費増加で、損益分岐点が上昇するということです。

損益分岐点が上昇するというということは、損益が分岐する売上高が上昇するということなので、売上を増大させなくては赤字になりますし、売上の減少時には、固定費が増加していますので、たちまち、赤字になりやすいということです。

次に、第2の不利は、設備投資に伴い借入金をすれば、設備資金の借入金返済による資金繰りの圧迫です。これは、不況による売上減少時には、本当にこたえます。

そして、第3の不利は、変化に対応する機動力と弾力性がなくなっていくことです。設備は順調に働いてくれてこそ役に立ちます。働いてくれない設備ほど始末の悪いものではありません。

市場環境は変化します。お客様の好みも変化します。得意先や仕入先の方針も変わることもあります。商品のライフサイクルで、商品が陳腐化し、全く売れなくなるかもしれません。「企業は環境適応業だ」という言葉がありますが、環境に柔軟に適応できなくなる可能性があるのです。

誤解のないようにいっておきますが、設備投資が悪だといっているわけではありません。上記のようなリスクを見込んだ上で、設備投資をするのであればよろしいと思います。つまり、設備投資は利益計画・資金計画を立てた上で、慎重に判断する必要があるのです。

<演習課題>

1. 設備投資をする際には、利益計画、資金計画を立てて、判断しましょう。